

青少年もがみ

第41号 令和7年2月1日

—発行—

最上地区青少年育成連絡協議会



青少年推進員と高校生ボランティア「ぎやらくと」との合同活動「おおくら美しい村大作戦」（大蔵村）

この温かな地域に感謝

舟形町青少年育成町民会議会長 信夫 貴吉



青少年育成の活動を行っている、私達が住む1市4町3村を巡ることがありますが、どの地域も大変綺麗です。道路沿いには花が植えられていたりします。子ども達にとっての良い環境が、皆の手で守られていることを実感します。それは大変有り難いことです。私たちの住む地域は田舎で雪深く、不便な所もあります。しかし、その厳しさや大変さを人は支え合いながら暮らしています。

最近、ニュースで高圧的なクレームを入れる人の増加が報道されていました。沢山の人のお陰で快適な暮らしが成り立っているのに、人の支えや繋がりが見えにくい世界ではどうしても文句を言いたくなるのかもしれない。

舟形町では、地域の方々の協力の下、花いっぱい運動やおはよう運動、清掃活動や草刈り等を行っています。そこで感じる人の温かさは、クレームのニュースとは正反対です。そして、青少年活動を一緒に行う高校生は真っすぐでしっかりしており、子どもと大人が学び合う良い機会となっています。これらは最上地域のどこでも行われており、大変素晴らしいことです。

これからも皆さんのお力をお借りしながら、穏やかで幸せに溢れた地域を守っていきたくです。その温かさが世界に広がることを願いながら。

各地域における青少年育成事業・青少年の活動の様子

新
庄
市

「住みよさ」をかたちに 新庄市

新庄市青少年育成市民会議の活動

○新庄市教育の日ブース出展

新庄市教育の日において、ブース出展を行いました。「新聞紙エコバック作り」やボール用紙とストローで作る「ヒコーキ作り」、紙コップと輪ゴムを使って作る「飛べ！紙コップ」など、様々な体験内容を準備しました。今後も参加した児童が楽しみながら交流できるよう、様々な体験活動を企画していきたいと思っております。

○チャレンジ体験パーク

子どもたちが楽しく感じる活動を通して豊かな心が育まれ主体的な学びの機会となるよう、小学生を対象とした体験事業を実施しました。



今年度は、本市推進員会会長の水田で収穫されたお米を使用し、5種類のお米を食べ比べる体験を行いました。当日は多くの参加者があり、参加した親子からは「家庭では炊き立てのお米を食べ比べることはできないので、貴重な経験になった。」などの感想がありました。

今後も継続性をもった取組・実施を意識し、少年・青少年・成人と地域を支える人材育成に努めていきたいと考えています。

最
上
町魅力をつなぐ
笑顔一杯あふれるまち

最上町の青少年健全育成活動について

最上町の青少年健全育成活動団体の主な活動内容は、あいさつ運動、青少年健全育成合同防犯パトロール、生徒・児童対象の標語と絵手紙コンクールなどです。

あいさつ運動は、毎月第3水曜日に実施し、偶数月は中高生の下校時に最上駅で、奇数月は高校生の登校時に合わせて町内JR各駅で「いじめ防止」の標語チラシ入りのポケットティッシュを配布しての啓発運動も併せて行っています。

7月末の豪雨災害によりJRが不通となり、8月末からはバス代行になり、多少の時間変更はありましたが、継続して行っています。パトロールは、町危機管理室、小・中学校PTA役員、防犯協会、町駐在所とともに、GW期間中や町内の秋の祭り期間中に合わせて実施しています。標語・絵手紙コンクールは、令和4年に制定された最上町「子育て憲章」の普及のために、五つの誓いを題材としてコンクールを実施しています。今年度も、標語は424作品、絵手紙は336作品の応募があり、いじめや非行防止に限らず、日常の気づきや願いや家族、友達、地域の関わりにと、視点の広がりを感じられるようになっています。今後とも続けていくとともに、少なくとも子どもたちとちょっと距離感を縮めていけるような育成活動を模索していきたいと考えています。

金
山
町

四季 奏でるまち。金山

金山町青少年育成活動について

令和6年7月22日に「心身ともに健やかな児童・生徒を育てること」を目的とした「金山町青少年健全育成町民大会」を開催しました。大会では、勝手に♥オネーサンをお招きし、「今がら山形のいいどごおしえでけっから ちよどしてきーてるよ」と題してご講演をいただきました。

講演では自身の幼少期の経験や、上京してから現在に至るまでを振り返り「自分の個性を大切にし、ありのままの自分で1歩踏み出すことが大事。『地元への愛』を謙遜せずに子供たちに伝えて欲しい」と語り、参加者は真剣な表情で耳を傾けていました。

講演会に参加いただいた町民の皆さんからも大変好評をいただき、町全体として青少年育成への関心と意欲を高めることができました。

今後も次世代を担う青少年の人材育成と健やかな成長につながるよう、地域・関係機関と連携し継続して事業を展開して参ります。

舟
形
町

縄文の女神と若鮎の里

舟形町の青少年育成活動

舟形町では、各町内会で地域の青少年と一緒に花苗を植える「花いっぱい運動」や子ども達の登校時に行う「おはよう運動」、子ども達自ら呼び掛けを行う「メディアコントロール週間」等の活動を行っています。今年度は、町青少年育成推進員合同防災研修会で講師の先生をお招きし、防災についての講演やワークショップをしていただきました。その後は炊き出しを行い、防災の知識を深めました。会員達は、様々なボランティアができて大変勉強になり、良い経験ができた感想を述べていました。

また、高校生ボランティア「ふなっ子」は、1年生18名、2年生4名、3年生1名の計23名で活動をしました。令和6年度は、保育園訪問や町青少年育成推進員合同防災研修会、YAMAGATA Youth Summit



参加や秋田での研修会等の様々な活動を実施しました。

各地域における青少年育成事業・青少年の活動の様子

真室川町



生きがいを感じ
幸せを感じるまち 真室川

真室川町青少年育成町民会議の活動

○地域社会環境づくり

6月2日「4駅クリーン作戦」を実施しました。地域や協力団体に呼びかけ、婦人会や防犯協会、スポーツ少年団の指導者や児童生徒が参加され、総勢117名が町内4駅の駅舎や駅周辺の美化活動を行いました。

6月から11月までの期間では、月1回の早朝、4駅にて「街頭指導」を実施し、計6回、延べ90人が参加しています。7月末の豪雨で線路が被災し、列車は運休中ですが、8月から代行バスが運行されたため事業を続行し、バスに乗ってゆく高校生を見守りました。

○青少年地域活動支援

11月24日「第22回ふるさと子ども伝承祭」が中央公民館で開催されました。町内の伝承芸能団体は継承活動をとおり、大人と子どもの関係を深め、社会性を育成しています。子どもたちが主役の伝承祭を町民会議では共催、支援しております。当日は高校生ボランティアサークルのホップステップも協力し、メンバーが司会役を担いました。次世代を担う青少年の活躍を、これからも支援してまいります。



大蔵村



おかえり、なりわい灯す
きよらなる里

大蔵村の青少年育成活動

大蔵村では毎年11月頃に、高校生ボランティアと青少年育成推進員のコラボ企画として、大蔵村内ゴミ拾いボランティアを実施している。生まれ育った大蔵村の景観を守るため、美しい村が美しいままであり続けることを再認識し、一人一人の村を思う心を育むことを目的にして行っている。

今年度は11月10日に行った。早朝の寒さの厳しい中ではあったが、高校生ボランティア6人、推進員5人の11人で行うことができた。

活動している中で気づいたことは、たばこの吸い殻と空き缶のごみが多いことだ。大人がルールや秩序を守らないがために高校生やほかの大人がその後始末をするというのは大変残念である。

他に気づいたことは、推進員と高校生ボランティアの仲の良さだ。幼いころから顔も名前も知っている間柄であり、家族同然のような他愛のない会話や、大人と高校生の垣根を超えた協力などを見ることができた。これこそが本村における青少年育成の強みだと思う。

来年度もこのような活動を続けていき、日々青少年育成のために努力していきたい。



鮭川村



多世代と自然が織りなす
“うるわしの里”

青少年育成事業の取組み

鮭川村青少年育成推進委員会は昨年度に引き続き、鮭川村内の巡回指導を5月20日（月）に実施した。今年度は中学校の振替休日に巡回を行って見たが、あいにくの雨で外に出ている子どもは少なかった。商店や施設などから子どもたちの様子を聞き取りしたが、店内や施設内で騒いだり暴れたり等の迷惑行為は見られない、客や利用者同士のトラブルは見受けられない、とのことだった。

今回の巡回で感じたことは、子どもたちの遊び場やゆっくり過ごすことができる場所が村内に少ないこと。目いっぱい身体を使って遊んだり、読書や会話をしたりすることができる場所が限られていることに



気づいた。子どもが安心して過ごすことができる環境づくりが、明るい安全な村づくりにつながるのではないかと。巡回を通してこのように感じた。

戸沢村



最上川・笑顔・いきいき
夢あふれる故郷（ふるさと） 戸沢村

戸沢村の活動状況について

今年の村民フォーラムは「まずは参加して体験してもらう」ことを目的として、子どもが楽しめる企画を重視し、村民会議シンボルマークの名前と、豪雨災害に負けず元気に盛り上げていこうという思いから『とざわげんきまる祭』と題し開催しました。

開会式では、スポーツや芸術、標語などで優秀な成績を収めた児童生徒の皆さんを表彰し、体験コーナーでは村民会議、PTA、消防団、教育委員会等が力を合わせ、モルックや理科実験、スポーツチャレンジ、非常食体験、絵本のおさがり市、ハロウィンブースなど多くの企画をしました。特に、戸沢学園中等部生徒が企画した戸沢産の食材を使ったたこ焼きやパンケーキ作りは好評で、ブースには行列ができるほどでした。また、はたらくるまの展示やキッチンカーの出店があり、イベント性を盛り上げたことも参加者の大幅な増加につながりました。



私の宝物（青少年育成推進員の活動及び所感）



思い出の居場所

新庄市青少年育成推進員 三原 伸二

新庄市の東山に青年センターがあった。そこで、高校一年に高校生ボランティア講座が開催され参加して以来今日まで活動をしている。当時、青年センター主催の市内の小学生を対象にした「わんぱく広場」に参加することになり関東に就職してUターン後も活動があり、ありがたくも職員の方に再びお声をかけていただきお手伝いをさせてもらった。多数の団体やサークルの方が利用していて、講習会の終了生の方々とサークルを立ち上げ活動の打ち合わせや何やらで週に1、2度はセンターへ通っていたらどうか、もっとかもしれない。写真を撮りはじめ暗室があると聞き空いていれば誰でも利用出来たので、学校がおわってから駆けつけ閉館間際声が掛かるまで、仲間で個展をする前は朝から晩まで暗室にこもっていたものだ。利用されている諸先輩方や指導員の方職員の方とも顔なじみになり、サークル活動での困りごとや自身の悩みなどを相談できる間柄になり叱咤激励され今でも感謝している。

老朽化で解体され、いまは更地になっている。子供の部活動で体育館に送迎する時にはふっとそちらを見て当時の欠片を思い出すことがある。またすてきな居場所が出来たらいいなと思うが。



毎日が宝物

最上町青少年育成推進員 大澤 美佳

私が青少年育成推進員の活動に関わり、今年で2年目になります。月に1回のあいさつ運動、春秋の祭りの見回りなどを中心に、コロナの規制が厳しくなくなってからなので、できるだけ参加しています。あいさつ運動では大きく成長した高校生にあいさつしながら、「昔の面影あるなあ」と思い出し、子どもたちにあいさつを返してもらおうと、ほっこり温かい気持ちになります。7月25日の水害で陸羽東線が不通になったことから高校生の多くはバス代行での通学となり、不便になって大変なこともあるようですが、めげない子どもたちの元気な顔を見るとうれしい限りです。

私には、高3と高1の子どもがいます。日々の送り迎えなど子どもと関われるのもあと少しと思うと、送り迎えの時間も大切に楽しみながら一日一日を過ごしています。PTA役員を経験させていただくことで、町の中にいろいろな組織がありたくさん活動をしていることを知りました。子どもたちが元気いっぱい笑顔でいられる町でありたいと思い、その活動に少しでも加われることをうれしく思います。私は普通に笑って暮らせることを宝物と考え、毎日感謝の心を忘れず、将来子どもたちが一緒に町を盛り上げていけるといいなと思っています。



私の宝物

金山町青少年育成推進員 小沼 美雪

金山町は令和7年1月1日に町制施行100周年を迎えました。そのため、現在様々なイベントで町を盛り上げています。記念式典で昔の写真や映像を見て金山町の歴史を感じるとともに、自分自身を振り返るきっかけにもなりました。

私は金山に生まれ、この町で嫁ぎ、3人の子どもに恵まれました。小学校、中学校、高校と子どもが成長するとともに関わる機会も少なくなり、時々寂しいと感じることがあります。しかし、昔の思い出を語り合う事など、日常の何気ない会話ができることは私の中での宝物だと感じています。

青少年育成推進員として、金山祭りの夜回りをする機会がありました。自分の子どもと同年代の子が祭りを楽しんでいる姿を見て、この子たちも将来いい思い出として語り合える日が来れば、それこそ人生の宝物になると思いました。また、子どもの友達に声をかけたり、手を振ると「はずかしいからやめて」と子どもから怒られますが、子どもは大人が守ってあげなければ将来も見せてあげられないと思うので、はずかしい母ちゃんでも声をかけ、見守ることを続けていきたいと思っています。今の子どもたちの声を大人になった時に聞ける事を楽しみにしています。



私の宝物

舟形町青少年育成推進員 海藤 和江

舟形町の青少年育成推進員を継続する中で、コロナ禍で活動が自粛されたり、都合が合わず参加できなかったりと、人との関わりが難しい状況で数年が経過しました。

そんな中でも二人の息子は成長し、一人は自立し、もう一人は学生生活を終えようとしています。成長できたのは、小さいころから友達や先生方、保護者の方々や地域の方々と様々な行事等での関わりがあったからだと感じます。現在、少子化により地域の活動も少なくなり、子ども達の姿を見る機会は、登下校時のバス待ちの時間くらいです。子どもの数は少なくなっていますが、息子達が小さかった頃を思い出しながら見守っています。

今年は高校生ボランティアサークル「ふなっ子」会員が増え、青少年育成推進員と合同で活動できる機会も多くなりました。せっかくの機会ですので、できるだけ参加し、少しでも多く関わっていききたいと思っています。

最近感じたことは、昨年父親が病気で亡くなり、亡くなって親の有難みを感じました。家族それぞれの役割を改めて考えさせられました。人と人との関わりの基本は家族だと思っています。自分の役割を果たし、自分自身を大切にし、未来を背負う子ども達を見守り、応援していきたいと思っています。

私の宝物（青少年育成推進員の活動及び所感）



宝箱を開けたら

真室川町青少年育成推進員 安彦 久美

「青少年育成推進員のメンバーになってもらえませんか？」と電話をくれた当時の担当者は、息子の同級生でした。「推進員って何すんなや？私に出来っぺがー？」という不安より、「目の前の箱を開けてみたい！」という気持ちが確かにありました。あの日から10年が経ち、表彰していただいた時は感慨深く、改めて身が引き締まる思いでした。

この10年で、もう続けられないかな？と思ったのは2回程…。その時々で相談に乗ってくれた担当者、心折れそうな時に温かい言葉をかけてくれた先輩や仲間たち。その方々の支えと家族の理解もあり、約1年のお休みをいただきました。復帰して最初の活動となったのは朝の挨拶運動でした。いつもと変わらない子どもたちの元気な声。相も変わらず落ちているのは、タバコの吸い殻や缶酎ハイの空き缶。その大人が捨てたであろうゴミを捨てる子どもたち。そのような事が少しでも減るように、声を上げていきたいと思えます。そして、『推進員』という大きな宝箱の仲間と共に『元気な挨拶が自慢の真室川町』がこれからも続くよう、子ども達そして地域の皆さんと町を盛り上げていこうと思えます。一人ひとりの力は小さいかもしれないけれど、仲間が増えれば大きな力になると信じて。



ふるさとを宝と思う心のリレー

大蔵村青少年育成推進員 大沼 友有子

今から半世紀も前のこと、夏休みに村の各小学校から6年生が数名ずつ肘折に集まってキャンプをする事業がありました。私は、初めての野外活動が楽しくて、大きくなったら教育委員会という所に入って、キャンプをする人になりたいと思いました。

それから長い時を経て、1998年度に村の事業として「おおくら葉山塾」がスタートしました。「おらの達人」から学びながら、自然体験事業を通じて、ふるさとの魅力に気づき、地元を見つめ直す機会として、地域に根付く事業として続けてきました。

教員を退職後、青少年育成推進員のお仲間入りしたものの、「おおくら葉山塾」は、コロナ禍により2年中止となり、やっと日帰り日程で再開できるようになった時でした。内容は縮小されましたが、鉱山跡地の探検、川遊び、バーベキュー、温泉入浴等、子ども達のあふれる笑顔に活動の意義の大きさを感ずることができました。かつての子ども達も高校生・大学生となりボランティアとして活動を支えてくれ、人と人との繋がりがしっかりリレーされていることを感じました。子ども時代にしか経験できないふるさとを体感する活動の機会を大事にしてもらいたいと願い、一緒に村の宝発見をしていきたいです。



私の宝物

鮎川村青少年育成推進員 遠田 旭有

私は元旦生まれですが、それがとっても嫌でした。最大の理由はケーキがないこと。誕生日はケーキにロウソクを立ててお祝いされる…そう思っていたのに。

ケーキもなく、ロウソクも立たず。その代わりにあったのは…お雑煮。そして立っているのはお雑煮の湯気。「ケーキが食べたい！」そう親に訴えていたことを覚えています。

でも、今思うことは…。

ケーキはなかったけれども、両親がお祝いしてくれた誕生日。お雑煮の湯気の向うの笑顔。欠かさず用意してくれていたプレゼント。

あの時のお雑煮を思い出すと亡き両親との思い出も胸によみがえります。

向うに行ったら、またお雑煮でお祝いしてもらいたい。そう思っています。

青少年の健全な育成の基本は家庭内のコミュニケーションだと考えます。嬉しかったことや悲しかったことなど、いろんなことを家族と話し、気持ちを分かち合う。このことが『他者の気持ちを理解する』ことにつながり、思いやりを持って他者と関われるのだと思えます。時には時間を作って、じっくり話してみるのもいいのかな、と思えます。



全国の災害ボランティアへ敬意を

戸沢村青少年育成推進員 大友 賢吾

忘れられない7月25日の豪雨災害。連日の豪雨と予想をはるかに超えた河川の氾濫で、歴史的な水害が私たちの地区を襲いました。幸い人的被害はなかったものの、村内の農業や住民の生活に大きな被害をもたらしました。

私は特に被害の甚大な蔵岡・古口地区を損害調査のため現地入りしたのですが、住民を超える数のボランティアの方たちが、早朝より県内外から復旧の応援活動に加わっていたことに衝撃を受けました。以前より大規模な災害時には全国で有志ボランティアの方々が活躍されていることは知っていましたが、実際に自分の住む村で目の当たりにするのは初めてでした。「重い物は私たちが撤去するので、家の方は指示してくれるだけでいいですよ」と、憔悴した住民に温かい言葉をかけていました。後に、高齢世帯の方の話では「力仕事は、ほとんどボランティアの方たちに世話になった。ほんとに助かった」と感謝の言葉ばかりでした。また、地域の子どもがボランティアと一緒に参加している姿もありました。この災害で感じた、県や市町村、地域、世代の垣根を超えた有志の方たちの「助け合いの気持ち」が私の心の宝です。

この地域で暮らす未来を担う子どもたちへ、この気持ちを繋いでいけたらと思います。

令和6年度 主な事業の報告

※青少年もがみ第40号掲載以降

1 “いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動標語
最上地区優秀作品選考会

【9月13日（金）最上総合支庁】

最上地区の全小・中学校等から、合わせて3,509点の応募がありました。選考の結果、次の作品が最優秀・優秀に選ばれました。

【最優秀】

その気持ち いつかじゃなく 今助ける
最上町立最上中学校 1年 千葉 琉真さん

【優秀】

「イジメてない！」 それってきみが きめること？
最上町立大堀小学校 4年 菅 風翔さん
「どうしたの？」 ぼくはいつでも みかただよ
大蔵村立大蔵小学校 1年 加藤 蒼羽さん
つなごうよ やさしいことば 心のあく手
戸沢村立戸沢学園 2年 高橋 幸杜さん

2 最上地区青少年育成推進員研修会

【9月14日（土）金山町明安食学校（旧明安小学校）】

青少年育成推進員の一層の資質の向上や相互の交流を深めるため、研修会を行いました。

◇感謝状贈呈

・舟形町 伊藤 浩氏
・真室川町 安彦 久美氏
・真室川町 日食 香織氏
・戸沢村 山崎 里美氏



◇「青少年の現状と青少年育成活動について」の報告

◇各市町村の青少年育成活動の紹介と情報交換

◇講演 演題 「食を通じた子どもの健全育成について」

講師 食のカコーポレーション代表取締役
福原 和輝氏

大豆ミートを使ったランチを試食しながらの講演でした。食と心は密接な関係がある事や、栄養だけでなく楽しんで美味しく食べることが大切であることなど、食育や環境教育の観点からお話いただきました。

3 山形県青少年健全育成県民大会

【10月27日（日）村山市民会館】

【表彰】

◇青少年育成成功労者

◇優秀標語作者

“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動の優秀標語作者の表彰では、最上町立最上中学校1年千葉琉真さんが表彰されました。

【いじめ・非行防止セミナー】

◇第63回山形県少年の主張大会最優秀受賞者の発表

演題 「障害を乗り越えて」
白鷹町立白鷹中学校 3年 井上 愛奈さん

◇事例発表 「子どものウェルビーイングを求めて」

特定非営利活動法人クリエイティブひがしね理事
三浦 通夫氏

◇講演 演題 「でっかい子育て人育て」

講師 クロフネカンパニー代表 中村 文昭氏

事業家であり作家であり、年間約300講演をこなす講演家でもある氏の「頼まれごとは試されごと」など自らの経験をもとに見つけた本当の「価値・豊かさ」、その道りを軽快に語った抱腹絶倒の講演でした。



(中村 文昭氏)

4 最上地区青少年育成懇談会

【12月8日（日）雪の里情報館】

最上地域の将来を担う青少年の健全育成を推進するため、地区内の高校生と青少年育成関係者が一緒に、「これからの社会をたくましく生き抜いていくために」をテーマに、4グループに分かれてワークショップ型で懇談しました。当日は、各高校代表生徒と市町村ボランティアサークルの高校生、青少年育成団体代表者等51名に参加いただきました。

今年度は、グループ懇談の前に、少年サポートセンター最北 井上聖子 上席少年補導専門官より、青少年を取り巻く環境と社会の課題として、身近で起きている具体的な事案をもとに、闇バイトや薬物（大麻）、SNSでのいじめや性被害などについてお話いただきました。グループ懇談では、どんな地域社会を作っていきたいかや、自分自身のあるべき姿や役割、身に着けておきたい資質・能力、スキルなどについての意見交換を通して、将来の生き方や地域づくりについて考えました。また、後段では、青少年育成推進員など青少年育成関係者が高校生にアドバイスしながら、グループごとに地域を明るく・元気にするメッセージ（標語）をみんなで作成しました。最後の全体会では、各グループで作成した標語を互いに発表し合うとともに、最上地区青少年育成連絡協議会 小松功会長より、全体講評をいただきました。

【高校生が作成したメッセージ】

- ◇対面で つながる信頼 ふえる交流
～あいさつで地域に元気を！～
- ◇地域の人と交流ができて 誰とでも気軽に話せて
あいさつできる
- ◇人と関わって 人を笑顔に 自分が笑顔に
- ◇自然・伝統・文化の魅力を 再発見しよう！
～みんなで笑おう～



編集後記

地域の未来を託せる頼もしい青少年との出会いや、郷土を心から愛し地域づくりに尽力されている青少年推進員の方々の熱い思いに触れ、感動した一年でした。これまでの関係者の皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。